

事件概要

- 2010年3月頃から岡崎市中央図書館の蔵書検索システムでアクセス障害が発生する
- 同市に住む男性が動かしていたプログラムによる**Dos攻撃**が原因として当男性を偽計業務妨害容疑で逮捕した事件
 - **Dos攻撃** - サーバーに対して過度のアクセスをかけ、サービスを妨害する行為

果たしてこれは攻撃なのか

- 男性が作ったプログラムは最高でも10分間に1600回程度のアクセスしかない
- 男性の釈放後、開発元の会社は少ないアクセスでも障害が発生してしまう恐れがあったとして謝罪した

しかし、男性は**起訴猶予**での釈放となった

※起訴猶予 - 立件はできるが反省の意図ありとして不起訴処分とすること

双方の視点からの課題



司法の視点

- 技術的な検証が不足していた
- 実際に開発をしていた会社からの情報提供がなされていなかった

技術者の視点

- 公共資源を利用する際にはその利用が適切であるか特に注意する

参考文献



事件概要について

[当時の毎日新聞記事\(アーカイブ\)](#)

[朝日新聞-この事件についての記事](#)

事件の技術的、法的な検証について

[当事者の男性が開設したこの事件の検証サイト](#)